

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年1月27日

東京大学での所属学部・研究科等:	総合文化研究科	学年(プログラム開始時):	博士1
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
<input checked="" type="checkbox"/>	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
<input type="checkbox"/>	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
<input type="checkbox"/>	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
<input type="checkbox"/>	7. その他()		

派遣先大学の概要

北京大学は「中国の東大」と呼ばれる、中国全土から学生が集まるトップの国立大学。キャンパスは北京の中心部から地下鉄で40分ほどのところにあり、周辺には清華大学や語言大学、研究機関がある。一番近くの歓楽街は「五道口」というところで、多くの留学生を目にする。

留学した動機

博士課程に在籍し、今後中国を対象とする研究者を目指すためには現地での一定期間の生活が欠かせないと感じたから。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	博士1	年生の	A2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	2月~	2018年	1月	
	博士1	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	博士3	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	年		年生の		月頃に
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			16	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			2	単位
	留学後の取得(予定)単位			2	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2016年	4月入学	2019年	3	月卒業/修了
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	3年		ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

博士論文のテーマがある程度決まり、どのような資料を収集・分析していくべきかの目処が立ったのがこの時期だったため。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

北京大学の留学生用HPの指示に従って入学手続きを進める(ただし、北京大学からメールで届く連絡は最小限。自身でマメにHPをチェックして情報を掴んでいく必要がある)。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

私の場合は半年ごとにビザの手続きをしたので、180日の留学ビザを二回取得した(180日の留学ビザの場合、期間内に一回しか出国できないため、一時帰国などをしたい場合はその都度ビザを取得し直さなければならず、費用もかさむ)。その際、都内神谷町にある中国ビザセンターで手続きを行う必要がある。取得までに必要な日数は約一週間であるが、早めに手続きをした方が良い。持参する必要がある書類などはビザセンターのHPに書かれている。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

180日のビザの場合は特に健康診断は必要ではなかった。頭痛や腹痛、風邪薬はあらかじめ持っていった方が良い。それに加えて持病があればその薬を。東大から加入が義務付けられている保険に加入していれば、無料で現地の病院の診察が受けられるので、過度に心配する必要はないと思う。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大本部から加入が義務付けられている保険に加入していた。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

留学に関する書類を所属の研究科に提出。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

既にHSK6級を取得していたが、留学直前に有効期限の2年が過ぎてしまう状態だったので、再度受験し取得し直した。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

寮や図書館で保証金が必要になるので(帰国時申し出れば戻ってくる)、日本円は少し多めに持っていった方が良い。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
高級漢語精読	6				
高級漢語口語	6				
高級写作	2				
中国文化講座	2	●			

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

留学先の北京大学では、春学期は対外漢語学院の中国語の授業(会話、読解、作文)と国際関係学院の中国の歴史・外交や現代中国政治に関する授業を受講した。中国語の授業は月曜日から金曜日まで午前中から午後にかけて毎日あり、夜は国際関係学院や歴史系の授業に出席するというスタイルであった。基本的に交換留学生の単位互換が認められているのは学部生の授業なので、私は中国語の授業を主に単位取得の授業として出席し、その他の専門的な授業は聴講という形で参加していた。秋学期は主に大学院のゼミ形式の授業に出席し、授業と並行して研究に必要な資料の収集を進めた。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

④学習・研究面でのアドバイス

学部生の交換留学の場合、授業に真面目に出席していれば単位を取ることは特に問題はないと思う。ただやはり「大学の授業を受けてさえいれば、語学も中国に対する理解も飛躍的に伸びる」ということはないので、+αでいかに日々中国語を使い、多くの本を読んだり研究会に参加したり、人から話を聞いたり多くの場所に足を運んだりすることが重要だと感じる。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

渡航前から日常会話の中国語に関しては問題はなかったが、北京に着いて1週間ほどは北京訛りを聞き取るのに苦勞した。ただこれはもう慣れの問題なので、最初うまく聞き取れなくても心配する必要はない。ただ、北京大学も北京大学の寮も英語が話せない人が多く、それにも関わらずネイティブと変わらない速い中国語でまくしたてて話し、留学生が聞き取れなくて困っている場面に何度も遭遇したので、そのような場合は筆談をするなど粘り強くコミュニケーションをとる覚悟が必要。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

北京大学中関新園2号楼に住んでいた(寝室は完全な一人部屋で、リビング・風呂・トイレのみもう一人のルームメイトと共有)。寮の予約に関しては北京大学からメールで連絡が来るので、その指示に従って申し込み。その際、指定の日時に寮申し込みのサイトにアクセスするのだが、瞬時に部屋が埋まるので注意。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

夏は大変暑く、冬は東京よりもはるかに寒い(ピークは12、1月)。普段風邪を引かない人も北京に来た途端何回もひく、という話を頻りに耳にし、私自身もそうだったので風邪薬は常備しておいた方が良い。大学は北京郊外にあるため、観光名所や北京の中心地まで足を運ぶには地下鉄に乗る必要がある。普段の生活は北京大学から徒歩20分、バスで10分弱の五道口という学生街で問題はない。お金は事前に日本の中国銀行で口座を作り、そこからキャッシュカードで引き出していた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は思っていたほど悪くないが、携帯は窃盗の被害が多いので、特に注意する必要がある。医療機関は大学指定の保険に入っていれば問題ない。保険証を病院に持って行って手続きをすませれば、すぐに治療を受けることができる。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮費で毎月6万弱、週末の旅行などを含めた生活費は毎月約5万～8万。中国において食費・交通費は安いですが、食費は中華料理ではなく日本食や他国の料理を食べようとする日本よりも高い。寮は別途水道代を払う必要がある。

・留学に要した費用総額とその内訳

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

時間を見つけては北京の観光名所に足を運んでいた。週末には北京近郊に小旅行することもあり、長期休暇には他省に旅行に出かけた。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生事務室は必要最低限のサポートしかしてくれないので、何か問題が発生した場合は自分でその都度事務室へ足を運んで確認する必要がある。年に約3回ほど留学生向けの旅行を企画してくれるので、希望をすれば参加することができる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

生活に必要なものはだいたい大学内のスーパーで揃えることができる。Wi-Fiも日本よりもはるかに発達しているので、事前に毎月10元のネット契約をすれば、大学・寮ともに自由にWi-Fiが使える。食堂は学生証にあらかじめスイカの様にチャージしないと使えないので注意が必要。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

これまで海外は一か月の滞在が最長であったため、「空気が汚い」、「反日」というイメージが強い中国で長期間生活することには強い不安があった。事務手続きに追われる滞在始めの一週間程は、大学や寮の職員の対応の日本との違いに驚いていたが、三週間ほどで次第に慣れてきて、納得いかないことがあっても「仕方ないか」程度に流せるようになっていた。大学の授業を受けて自身の見識を高めることは、海外生活においてとても大切なことであると思うが、それ以上に日々現地で生活する中で、いかに日本で報道されて作り出されている「人々の中国像」と現状が異なっているのかということに日々直面することで、中国政治を専門とし、これまで何度も中国へ訪れたことのある自分も結局はそのような像から抜け切れていない面があったのだと痛感した。このような経験はやはりある程度の期間現地に滞在することで「気付く」ことができるものだと考える。私は既に中国を研究対象地域とする研究者を目指して北京に留学したが、1年近く生活したことで、自身の中国という隣国についての理解がまだまだ不十分であることを改めて実感した。今後より一層中国政治や歴史、文化に対する見識を深められるよう努めていきたいと思う。

②留学後の予定

博士論文執筆

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学は、日本で生活しては知り合えない人々と知り合うことができ、自分が今まで当たり前だと思っていたことを良くも悪くも覆すことができる貴重な機会だと思います。慣れない生活環境にいかに順応し、そこからどれだけのものを得られるよう足掻いていくか、というプロセスは自分自身に大きな成長をもたらしてくれることでしょう。最終的にどんな職業に就いても、そのような経験は必ず役に立つものだと思うので、少しでも留学を考えている場合はとにかく飛び込んでみることをお勧めします。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年 7月 24日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
✓	3. 公務員		4. 非営利団体
✓	5. 民間企業(業界: 未定)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

1898年に京師大学堂として創立。中国大陸においては清華大学と並び最高峰の総合大学であり、日本の「東大」に相当する。日本以上に熾烈な受験競争を突破したエリートが中国全土から集う。THE世界大学ランキング2018においては27位と、アジアではシンガポール国立大に次いで2番目の位置にあり、近年急速に順位を上げている。

留学した動機

中華圏に対する関心が元々強く、大学における第二外国語の学習を通じて、中国についての理解を深めたいという気持ちが強くなった。増え続ける訪日外国人のうち多数を中華圏の観光客が占め、国際社会においても中国の影響力が段々と増大する中において、中華圏でビジネスをする人はもちろん、日本国内で働く人間にとっても、中国語を含めた中華圏の文化や社会を体感することは重要であると考えた。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部3	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	9月~	2018年	7月	
	学部3	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部3	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	学部4	年生の	6月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			42	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			10	単位
	留学後の取得(予定)単位			34	単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2020年	3月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		ヶ月間		

⑨留学時期を決めた理由:

同じ学科で過去に交換留学へ行っていた先輩は軒並みこの時期を選んでいたので、私の学科の場合、卒業論文の準備を卒業前年の4月にはスタートさせなければならず、4年次で留学へ赴くのは適当ではないと判断した。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

北京大学からの留学許可が出た後、メールの指示に従ってオンラインレジストレーションを進める。しばらくすると寮の案内があるが、この寮は例年すぐに埋まってしまうのでなるべく早めに申請できるようにメールをこまめにチェックする。少しでも不明な点があれば、留学生事務室に英語か中国語のメールで質問すると良い。あとで「知らなかった」ではどうにもならないこともある。現地到着後、北京大学の学生中心で改めてレジストレーションがあるが、テントで待機している日本人留学生会の人に聞けば色々と助けてくれる。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

入学許可書が届いてから、神谷町にある中国ビザセンターで申請・受け取りを行った。ビザは4営業日で発行されるが、念の為資料が揃い次第すぐに申請しておくのが良いだろう。1年の留学の場合申請するのはX1ビザ、半年の場合はX2ビザである。X1ビザは仮のビザで、入国後に(服務態度が酷い)公安局で居留許可を申請することでマルチビザになる。X2ビザは基本的にシングルである。申請書類は指示通り書けばよいが、香港や台湾に行っている場合、最近訪れた国・地域に「台湾」「香港」と書くとながらぬので注意。(「一つの中国」原則に基づき、「中国台湾」「中国香港」と書かなければならない)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

1年留学の場合は国立病院等で健康診断を受診し、健康診断書を現地で提出する必要がある。日中友好病院など指定された通常の医療機関で受診すると3万円もかかる。私の場合、東大の保健センターに依頼して中国側に指定されたフォーマット通りに英文診断書を作成してもらった。定期健康診断で受けていない検査は追加で行ったが、費用は数千円と非常に安価に抑えることができた。大学保健センターのものはリジェクトされるかもしれないという不安があったが、現地でも特に問題なく受理された。予防接種も保健センターで受けられるので相談するのが良い。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東大当局に加入を要求される保険(9万円ほど)と北京大学当局に加入を要求される保険(1万円ほど)に加入した。二重だからといって免除は認められないので注意。北京大学の方の保険は後払いで使い勝手が悪く、実際に受診する際は東大で買ったキャッシュレスの保険を活用した。一度入院した際も日本のコールセンターに電話したら現地係員が派遣され、入院手続き等を代行してくれるなど、保障は手厚かった。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

教養学部当局と本部国際交流課に要求された数々の書類を提出したほか、学科・コース主任の先生に必修の野外演習や卒業論文の時期などについて相談した。3年秋からの留学の意志がある場合、内定してすぐに学科主任の先生に相談しに行くのが良いだろう。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

はじめから本科の授業を受ける場合HSK6級、まず対外漢語学院に所属する場合にはIELTS6.5以上かTOEFL-iBT79点以上の英語スコア、もしくはCFER:B2程度の中国語能力(HSK4級相当)が必要である。中国語のスコア提出のみでも問題ないが、中国留学は比較的マイナーなため本部国際交流課の方と認識の齟齬が発生したことがあった。国際交流課に早めにコンタクトを取って念入りに確認した方が良い。中国語は大学での第二外国語の学習以外に特別なことをしていないが、2年生秋時点でHSK5級を取得していた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

常備薬や電子辞書、疲れたときに癒しになる物などを持っていくほか、日本で予め信頼できる有料VPN(中国のインターネット検閲を突破するためのツール)を準備しておく、日本から中国への送金手段も複数確保しておくべきだろう。特にVPNは、中国に行ってから契約しようとするのが難易度が格段に上がる。また、LINEやTwitter、Facebook、Gmailなどは軒並み中国当局のネット検閲によって(VPNが通じなければ)アクセスできないため、他のフリーメールやWechat、Skypeなど、代替となる連絡手段も確保しておくのが良い。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)
※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
中級漢語精読	8	●	台湾政治概論	2	●
中級漢語口語	6	●	中日関係史	3	●
中級作文	4		合唱基礎の理論と実践	2	
正音	2		中国歴史地理	2	●

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

前半は対外漢語学院での授業とその予習・復習を中心に学習していた。宿題や小テストがそれなりの頻度であるため、基本的にはそれ+αの勉強をしていれば十分であるように思う。後半は本科の授業だったため、学習の忙しさや課題の発生は時期によって異なった。レポートのない時期は余裕があったが、一旦レポートが出るとそれにかかりきりになることが多かった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

前半は週20時間の語学のみを受講していた。後半は、週6コマ13単位の授業を履修したのに加え、週に2~3コマを聴講していた(忙しさに応じて自主的に調整)。前半は、平均して一日2時間ほどは復習に充てていた。後半は、時期によって忙しさが異なったので一概に言うことは難しい。レポートによって忙しい時期は一日中レポートを書いていた。何も無い時期は授業時間外に勉強しない日もあった。

④学習・研究面でのアドバイス

中国の大学生風のレポートを独力でいきなり書くのは難しいので、日本人本科生などの先輩に頼んでいくつか中国語レポートの例を見せてもらうと良い。また、レポートを親身に添削してくれるランゲージパートナーを獲得するのが望ましい。多くの授業では授業中にWechatグループが作成され、そこで様々な情報が共有されるのでしっかり加入しておこう。Wechatグループやその他の電子的手段でパワーポイントのスライドやプリントが配布されることがほとんどなので、それらの情報を聞き逃さずしっかりと確保するのが重要である。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

HSK6級レベルであっても、ネイティブ同士の会話や本科での授業を聞き取るのは難しい。これについては慣れるしか無いが、耳にしても発話にしても、場数を踏めば踏むほど段々と慣れていくので、ランゲージパートナーを増やしたり現地のサークル活動に参加するなどして、聴説の機会をなるべく増やしていくのが重要だと思う。日本人留学生とだけつるむ毎日は避けるべきである(全くかかわらないのは良くない。互恵的な関わり方をしよう)。

生活について	
①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)	寮(中関新園)はメールで案内が来るので、通知を見逃さないようにする(放置すると住むところなくなるので)。寮が取れず自力で部屋やホームステイ先を探すことになった学生も何人か居たが、北京大学周辺は家賃も高いので軒並み苦勞していた。私が住んだのは6号樓の2人部屋で、トイレ・シャワーは2人で共用だが寝るところは個室となっており、プライバシーが保たれ快適だった。一日110円で一ヶ月あたり五万円強である。家賃はクレジットカード(VISA/Master)で支払える(3300元のデポジットは現金のみ)。なお、基本的に留学生だけの寮ではあるが、北京大学からの「中国人と住むプログラムに参加しないか」というメールに返信すると、中国人とルームメイトになることができる。春節の際にルームメイトの実家へ遊びに行ったりと非常にお世話になったので、強くおすすめしておく。
②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)	夏は40度近くになり、冬は一日中零下の気温となる日が続く。年間を通じて乾燥しており、天気汚染や黄砂、柳絮(柳のわた)など、空を漂う物質も豊富である。呼吸器にとって最悪の環境であると言え、一度来れば「なぜこんなところに首都を建設してしまったのか」という疑問を持つこと請け合い。マスクは中国で様々なものが売っているので、日本から持っていく必要はないが、現地で用意しておくのが良い。中国の大学では学生の殆どが大学内で暮らしていることから、大学構内にはスーパーや食堂などが点在し一つの街のようになっている。よって大学内で大体の用事は済む。中関村や五道口など、買い物や飲み食いができる繁華街も1~2kmのところがあり、シェア自転車を漕げばすぐである。ただし、食堂は営業時間が限られている上に寮からも距離があるので、デリバリー(外売)のお世話になることも多いだろう。あらゆる料理の出前がアプリから注文でき、30分~1時間以内で届くので非常に便利である。交通も至便であり、寮の目の前に地下鉄駅とバス停がある。お金の送金は、日本でソニー銀行の口座を作成し、ソニー銀行のデビットカードを使って都度キャッシングをしていた。寮の近くに24時間ATMがある上、窓口に行く必要がないので便利であった。また、奨学金も直接ソニー銀行の口座に振り込まれるようにしたので、親の手を煩わせることもなかった。送ったお金は現地の中国銀行の口座に入れた。現地銀行口座をWechat PayやAlipayなどの電子決済アプリと結びつけることで殆ど現金に触れない生活をしてきた。
③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)	治安は大変良い。夜間に一人で外出しても特に危険なことはないだろう。人混みでのスリなどには気をつける。スマートフォンをなくすと生きていけない。医療機関は日本で加入した保険をキャッシュレスで使えるところならどこでも良い。先輩に聞くのが確実だろう。行く度に交通費ももらえる。「重度汚染」など大気汚染のひどい日にマスクをするなど気をつけてはいたが、インフルエンザにかかったり謎の高熱を出して入院したりしたので、どうしても呼吸器がやられる病気になりやすい環境なのだと思う。メンタルをやられそうなときは人とお話をしたり日本の友達と通話したり、あるいはTwitterをしたりするとよいだろう。
④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)	・毎月の生活費とその内訳 家賃月3300元、生活費が月に2000元~だろうか。食費はすべて学内で済ませれば一日40元しないうえ、交通費なども市内の公共交通ならば往復10元ほどで回れるため、高額商品を買わなければ普段の生活費は安い。
	・留学に要した費用総額とその内訳 上に加えて航空運賃(往復6万ほど)、保険料、入居後に買った家具、教科書代(500元ほど)、旅費などを全部ひっくるめて100万円に収まっているはずである。
⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)	交換留学申し込み時に大学から紹介されたJASSOの奨学金(月6万円)を受給していた。家賃に消えた。
⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)	中国におけるマンガ・アニメ文化の受容のされ方を探ることを一つの目的にしていたので、北京大で最大級のサークルであるマンガ・アニメファンサークルに加入し、いくつかの活動に参加した。日本から大物ゲームクリエイターを北京大学に招聘した際には、通訳補助を務めた。マンガ・アニメイベントにもいくつか赴いた。その他、日中交流サークルや北京大の合唱団に加入していた。長期休暇は様々な地方へ旅行にかけた。新疆ウイグル自治区や中朝国境地帯は強く印象に残っている。春節には四川省にあるルームメイトの実家にお邪魔した。
派遣先大学の環境について	
①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)	必要な手続き等については留学生事務室から都度メールが流されるが、よくわからない時は直接行って聞く必要がある。また、主張すべきことはしっかりと主張しないと不十分な対応に終わることもある。対外漢語学院に所属している間ならば、留学生事務室の先生よりもクラスの先生の方が圧倒的に親切なので、もし悩みがあれば親身になって相談に乗ってくれるだろう。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)	
図書館はとても大きいですが、早朝から晩まで勉強する学生でごった返しているのであまり利用しなかった。本を借りるにはデポジットを支払う必要がある(帰国までに取り返しておこう)。中国の大学ではバスケットが非常に人気であり、いたる所にバスケットコートがある。また、大学内にはジム(有料)もあるので運動場所には困らないだろう。食堂は10箇所ほどあるが、朝昼晩とも2時間ずつしか営業しないので注意。大学内は宿舎内も含めてWifiが飛んでいて、月10円で使い放題である。但し、あまり安定していない。	
留学と就職活動について	
①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど	
就職活動の時期が制約されることはデメリットだが、北京にいと東京では会えないような地位の社会人とも簡単に会うことができるので、北京に拠点がある企業(特に商社・マスコミなど)を目指している場合は有利に働けよう。今のところ中国と関係ない業界でサマーインターンにどんどん落ちているので、中国留学をしたからと言ってどの業界でも有利になるということではないものと思われる。	
②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響	
留学以前は比較的国内指向が強かったが、将来は国外で働くかもしれない、ということ意識するようになった。中華圏の今後の発展によっては、将来は中国系企業で働くほうが待遇が良い、ということも出てくるのではないかと思う(現にファーウェイなどは日本国内に拠点を構え、エンジニアを高額の初任給で引き抜こうとしている)。	
③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)	
3年秋からの留学で国内企業への就職を考えている場合、帰国後の夏にサマーインターンシップへ参加できるよう6月からしっかりとエントリーなどの準備を進めておくべきだろう。北京に駐在員がいる企業を志望している場合は、留学生という立場を活かして積極的に会いに行くべきである。	
④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください	
	1. 研究職
	2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:)
	3. 公的機関(機関名:)
	4. 非営利団体(団体名又は分野:)
	5. 民間企業(企業名又は業界:)
	6. 起業(分野:)
	7. その他()
留学を振り返って	
①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感	
日本では体験し得ないたくさんの経験を積むことができ、世界が少し広がった、ということに尽きるだろう。中国への理解が少しは深まったし、西側社会では当たり前とされていることが通用しない「中国の特色ある価値観」も、実際に体感することで何となく輪郭を把握することはできたと思う。中国語能力もそれなりに向上したし、それまで一切なかった中国人の友達や中国人とのコミュニティもできた。将来海外で働くことに対する抵抗も小さくなったし、今後のキャリアプランを考える上での選択肢も大きく増えたように思う。異なる環境に適応することに対しても自信がついた。	
②留学後の予定	
教養学部後期課程での勉学を継続し、2020年3月に卒業。	
③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス	
はっきり言って、中国・台湾の大学は穴場です。豊富な募集人数を埋めるだけの希望者が集まっていません。しかし、そこでの体験が他の英語圏の大学(香港・シンガポールも含め)に劣るかと言うと、全くそんなことはないと思います。私は、せつかくこのような機会があるのにみすみす見逃すのは勿体無いと考え、志望しました。留学は大なり小なり、人の思考法や価値観に影響を及ぼします。留学によって新たなフィールドを得ることは、自分の世界が広がることを意味します。中華圏というフィールドを少しでも魅力的に感じる人であれば、どのような動機であっても、留学へ行くことによって損をすることはないと思います。以前の私は留学など全く考えていませんでしたし、口を開けば留学留学と言う「軽薄なグローバル主義者」に対する漠然とした反感まで抱いていました(留学を目指す学生のほとんどはそんなことはなく、真面目に勉強されていると思います)。しかし、留学は決して「そういう人たち」だけのものではありません。僕は、いま留学に興味がない人にこそ、留学に行ってもらいたいです。ぜひ、チャレンジしてみてください。	
その他	
①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物	
以前に北京大学へ留学されていた方々のプログラム報告書	
②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。	

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年 11月 26日

東京大学での所属学部・研究科等:	法学部	学年(プログラム開始時):	学部3
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職		2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員		4. 非営利団体
	✓ 5. 民間企業(業界:)		6. 起業
	7. その他()		

派遣先大学の概要

中国語能力が十分でない留学生向けの中国語語学クラスを毎日履修しながら、英語で実施される私の専門である国際政治に関するクラスの履修

留学した動機

一度も海外に一定期間以上滞在したことがないので、学生という貴重な時間を活用して必ず海外留学をすることは入学当初から決めていた。その上で大学生生活を送っている中で、世の中に溢れるニュースや海外に関する情報がどこまで信憑性があり、海外の私と同じ年齢の学生が何を考え、何を体験しているのかを自分自身で確かめたくなり留学を決定した

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部3	年生の	S2	学期まで履修	
②留学中の学籍:						
③留学期間等:	2017年	9月~	2018年	6月		
	学部3	年時に出発				
④留学後の授業履修:	2018年	学部4	年生の	A1	学期から履修開始	
⑤就職活動の時期:	2018年	学部4	年生の	11月頃に	行う予定	
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			30	単位	
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位	
	留学後の取得(予定)単位			50	単位	
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2020年	3	月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		0ヶ月間			
⑨留学時期を決めた理由:						
学部2年次にはまだ海外で英語で勉強をできる程の自信も英語力もなかったが、短期留学などを繰り返すことで徐々にオープンマインドになってきたことを実感し、学部3年での留学を決めた。また2年次には進学振り分けもあったことで日本にとどまっておきたかった。留学すれば価値観が激変することはわかっていたので、就職活動をはじめの前に留学を決めたことも三年生の時に留学した理由の1つである。						

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

書類などが届けば、面倒くさがらずにすぐに対応することが大切。もし面倒くさがって対応を先延ばしにすれば、寮の締め切りなどを逃し、大変なトラブルに巻き込まれる可能性もある。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

中国留学ビザは比較的簡単に取得できる。中国語ができなくても、ビザセンターに行けば親切な対応をしていただけるので心配は不要。ビザ取得には通常一週間(課金すれば2日)しかかからない。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

一年間留学する人は健康診断の提出が必要だが、現地に着いてから北京大学が手配してくれるので出国前になくても問題はない。(ただし6000円程度の自己負担は必要)

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

東京大学が指定する保険に入っていれば、まず問題はない

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学部生の時に留学するかぎり、特別な手続きはほとんどない。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

そもそも交換留学に応募するのにTOEFLの提出が必要だが、北京大学に留学しそこで中国語を学ぼうと思っている限り、さらなる語学要件はない。北京大学で中国語で他のサブジェクトを学ぶことを考えている場合は、HSK 6以上が必要

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

中国語と日本語の辞書、大気汚染対策グッズなど

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
初級中国演習			中級中国語演習		
Chinese folklore and culture	2		The Silk Road: A global history	2	
Chinese politics and public policy	3		Chinese perspective on international and global affairs	3	

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

中国の授業は少人数制で非常にためになった。留学前は全くもって中国語を話せなかったがlaos老师在丁寧にひとり1人指導してくれる。英語の授業は、様々なバックグラウンドを持つ学生と中国国内から見た中国政治について学べ、大変有意義なものだった。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

中国語のクラスが週に20時間、英語のクラス(任意)が5時間/週あった

④学習・研究面でのアドバイス

宿題が多くウィークリーでのクイズも多いので、予習と復習をしっかりとしていると効率的に学べる

⑤語学面での苦労・アドバイス等

日本人なので読み書きにはさほど苦労しないが、それにあぐらをかいて勉強を怠ると後から取り返すのが大変になる

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

北京大学が留学生対象に提供しているキャンパスから徒歩1分の留学生寮に住んでいたが、友達のほとんどがそこに住んでいたため気のすむまで交流することができる

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

VISA, MasterCardなどは基本使えない。中国で中国の銀行のアカウントを開いてWeChatPayなどと連結させると、cashless社会がいかに中国で浸透しているのか実感できて大変良い経験になる

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

大気汚染が深刻で精神面にも影響が及んでくるが多々としてあったが、現地でできた友達と可能な限り交流を続けていくことが大切。部屋にこもらない

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

寮の費用63000円、食費30000円、その他交際費30000円

・留学に要した費用総額とその内訳

150万円程度(正確な額は把握しておらず)旅行をたくさんすればその分費用はかさんでいくが、相対的に中国は物価が安い

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

Fung scholarships から奨学金を受給

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

長期休暇は中国国外を旅行して過ごした。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

留学生専用の窓口があって、しばしば英語があまりうまくない職員もいたが、大抵の場合はなにかトラブルがあればそこで対処・解決してくれる

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

ジムはキャンパスの寮の両方に完備されていた。食堂は信じられないほど安かったので多くの学生が朝昼夜利用していたが、混む時はとても混むし、空いている時間が短いのは欠点。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

みんなが選ぶ就職先をなんとなくで選ぶのではなく、今まで誰も就職したことのないような業界・職種も視野に入れるという意気込みが身についた。やはり中国で身につけた英語力を生かす就職先には就きたいと思う。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私にとって、今回の一番の意義となったのは人との出会いだっただけでなく、たくさんの様々なバックグラウンドを持つかけがえない友達を作ることができ、それに尽きた。そういった経験ができたことで自分に自信がついたし、さらに海外に飛び出して行きたいという今後のモチベーションにもつながった。

②留学後の予定

東京大学で学部を終了した後に、就職する予定。その後は学習意欲がまた湧いてきたら院進も視野に入れる

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

迷っているのなら、絶対にしたほうがいい。日本にいた場合にできた体験よりも何十倍も価値のある経験ができる。しかし私の場合本当に大切だったのは、そこでの人との出会いだっただけでなく、シャイにならず貪欲に友達づくりに邁進してぜひ親友と呼べる人を何人もつくってきたらその後につながる宝物になる。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

過去に東大から交換留学を利用して北京大学に留学した先輩の体験記や、もしその人を直接知っている場合は事情などを詳しく聞いて大変役に立った

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 海外留学・国際交流プログラム報告書(3ヶ月以上1年未満)

2018年 12月 10日

東京大学での所属学部・研究科等:	教養学部	学年(プログラム開始時):	学部2
参加プログラム:	全学交換留学	派遣先大学:	北京大学
卒業・修了後の就職(希望)先:			
	1. 研究職	<input type="checkbox"/>	2. 専門職(医師・法曹・会計士等)
	3. 公務員	<input type="checkbox"/>	4. 非営利団体
	5. 民間企業(業界:)	<input type="checkbox"/>	6. 起業
	7. その他()	<input type="checkbox"/>	

派遣先大学の概要

北京大学(英名:Peking University)は、北京市海淀区に所在する中華人民共和国の国立大学である。1898年に創立された。

留学した動機

中国語を学び、中国社会への理解を深めること。もともと海外への長期滞在経験がなかった私は入学当初から留学することを志していました。同時にもともと言語に興味があったこと、英語だけではライバルと差別化できないことから、第2外国語として学び将来性も大きい中国語圏へ留学することにしました。

留学の時期など

①留学前の本学での修学状況:	2017年	学部2	年生の	S2	学期まで履修
②留学中の学籍:	留学				
③留学期間等:	2017年	9月~	2017年	7月	
	学部2	年時に出発			
④留学後の授業履修:	2018年	学部2	年生の	A1	学期から履修開始
⑤就職活動の時期:	2019年	学部3	年生の	10月頃に	行う予定
⑥本学での単位数:	留学前の取得単位			58	単位
	留学先で取得し、本学で単位認定申請を行う単位			0	単位
	留学後の取得(予定)単位				単位
⑦入学・卒業/修了(予定)時期:	2015年	4月入学	2020年	9月卒業/修了	
⑧本学入学から卒業/修了までの期間:	5年		6ヶ月間		
⑨留学時期を決めた理由:					

進学選択や就職活動の関係上、多くの先輩や同期も3年の秋から留学していたので、私もそのようにしました。

留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

早め早めに行うことがいいです。中国語圏は競争率も高くないので枠に入れるかどうかは心配なくていいです。必要な書類も多くはなく、手続きも先方の指示に従っていれば簡単に完了するので安心です。

ビザは大使館でなく、虎ノ門にあるビザセンターで行います。手続きも迅速で、留学用ビザも数週間で手に入ります。ビザ申請の費用もアメリカのように高くなく、10000円もかかりません。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、常備薬、予防接種等)

必要最低限の予防接種をしています。中国には一通りの医療薬を持っていくべきですが、特に胃腸薬、風邪薬は必要です。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

学校が指定した保険に加入していました。留学先でも800元の保険に加入させられます。また、日本で保険に加入しておく、現地で交通費を1回200円支給してくれる医療機関があります。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科(教育部)で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

単位交換をしていないので、海外渡航届などの書類を提出したのみです。

⑥語学関係の準備(出発前の語学レベル・語学学習等)

出発前にはHSK5級の合格点を取得しています。北京大学では語学コースか、本科コースを選べます。HSK6級を持っていないと、中国人学生と同じ本科コースを選択することはできません。1学期を語学コースで学び、10月11月の試験で6級取得後2学期目で本科コースに行くことは可能です。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

乾燥する気候なので、保湿クリームなどがあるとよいです。もちろん現地で直接キャッシングができるクレジットカードなども必要です。

学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(授業を履修した場合)

※そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったもの(又は行う予定のもの)に●をつけてください。

授業科目名	単位数	単位認定の申請	授業科目名	単位数	単位認定の申請
高級汉语	4		中国政治基礎	2	
高級口語	6		中国外交	2	
中級汉语	4				
中級口語	6				
漢英翻譯	2				

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

中国外交に関する授業は、留学生も多く、少人数、ディスカッション中心の授業で、とてもいいです。

③1学期あたりの履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

1学期あたり15単位ほど取得。1学期は語学中心であったが、HSK6級を取得した後2学期目は中国語の授業を多くとれた。

④学習・研究面でのアドバイス

日本人が多いですがなるべく避けて、中国人や外国人と交流することをお勧めします。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

多くの北京大学生がランゲージパートナーを探しています。北京大學でもそのような機会を提供してくれます。お互い協力することが大事です。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

北京大學の寮に住んでいました。2人部屋で、1日75元ほどです。その部屋は狭く、プライベート空間もないため、お勧めしません。個室がある1日100元~110元の部屋をお勧めします。

②生活環境(気候、大學周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

交通費と食費は日本より安いです。空気がなお悪く、乾燥もしているので対策が必要です。大學付近の地下鉄から1本で中心部まで行けます。近くには中関村と五道口という繁華街があります。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安には問題ありません。医療機関も日本人向けのものが充実していて、問題ありません。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

・毎月の生活費とその内訳

毎月3万円ほど。食費は学内であれば1食10元ほどで済ませることができます。外食や出前をすると1食50元~100元ほどかかります。そのほかネット通販で様々な買い物ができます。書籍はかなり安く購入することができます。日本で2000ほどする本が50元以内で買えます。ナイトクラブは100元~です。

・留学に要した費用総額とその内訳

130万円ほどかかっているとおもいます。留学直後に15万円ほど使いましたが、その後はひと月10万円以内で収まります。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

百賢財団の奨学金をいただきました。1年間で12500米ドルの支給です。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

中国全土を旅行することができました。現在は新幹線も多いですが、寝台鉄道を用いると現地の人と交流できてお勧めです。

派遣先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

十分とは言えませんが、留学生も多く、対応はしっかりしている方だと思います。オフィスが開いている時間はいつでも相談できます。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

wifiは最初の2か月無料、その後1か月10円で利用できます。食堂は安く、種類も多いです。

留学と就職活動について

①(就職活動を既に行った場合)留学が就職活動に与えた影響、メリット・デメリットなど

卒業年度を延期しており、特に影響はありません。

②(今後就職活動を行う場合)留学が就職に対する考え方に与えた影響

海外で活躍できる職種を希望するようになりました。

③留学中の就職活動への対策など(もしあれば)

日本人留学生会が様々なセミナーを開いています。参考になります。

④就職が決まっている場合は、差し支えない範囲で就職先をお知らせください

- | | |
|--|--------------------------|
| | 1. 研究職 |
| | 2. 専門職(法曹・医師・会計士等)(職名:) |
| | 3. 公的機関(機関名:) |
| | 4. 非営利団体(団体名又は分野:) |
| | 5. 民間企業(企業名又は業界:) |
| | 6. 起業(分野:) |
| | 7. その他() |

留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

語学に自信がついたことが大きいです。また、海外を特別と感ずることがなくなりました。

②留学後の予定

司法試験予備試験の準備をしています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外留学経験は自分の視野を大幅に広げてくれます。ぜひ挑戦しましょう。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。